

＊あの頃は  
すべてがたいせつに思えた  
愛でさえも……

バーブラ・ストライサンド | ロバート・レッドフォード

ブラッドフォード・ディルマン / ビベカ・リンドフォース  
ハーブ・エデルマン / マレー・ハミルトン  
パトリック・オニール

＜カラー作品＞パナビジョン

# 追憶

ついで

THE WAY WE WERE 

製作 レイ・スターク / 監督 シドニー・ポラック / 原作・脚本 アーサー・ローレンツ / 音楽 マービン・ハメリッシュ / 主題歌 バーブラ・ストライサンド  
サントラ盤 = CBSソニー ● 原作邦訳 = 早川書房刊 ● コロムビア映画



**\*スタッフ\***  
 製作……………レイ・スターク  
 監督……………シドニー・ポラック  
 原作・脚本……………アーサー・ローレンツ  
 主題歌……………バーブラ・ストライサンド

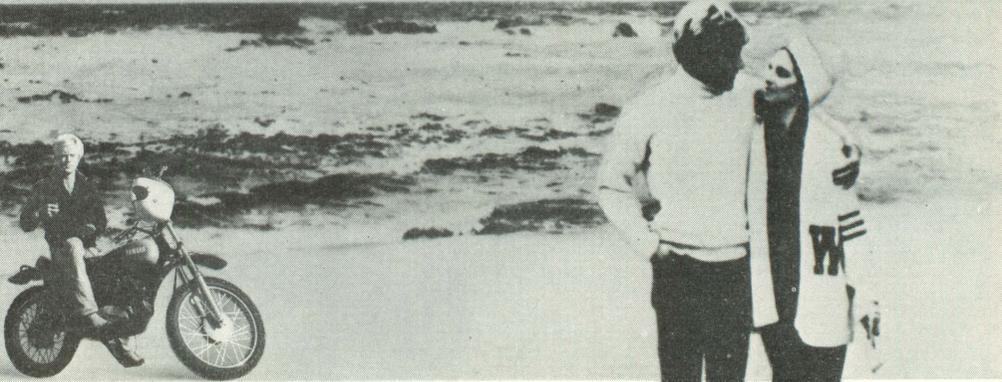
**\*キャスト\***  
 ケイティー……………バーブラ・ストライサンド  
 ハベル……………ロバート・レッドフォード  
 キャロル・アン……………ロイス・チルズ  
 J・J……………ブラッドフォード・ディルマン

# 追憶

ついおく

コロムビア映画

★カラ！作品・パナビジョン



**\*かいせつ\***

1930年代から50年代の初めまで、20年間にわたる愛のよろこびとかなしみを描いたラブ・ストーリー。

物語は2人の男女の学生時代から始まる。同じクラスにしながら、生き方も考え方もまったく異なる2人。在学中はお互いに愛をかわすには遠すぎる存在だったが、卒業後、数年を経て出合い2人は結婚する。そして幸せに満ちた平和な生活が続く……。

だが、突然まき起こったマッカーシズムの嵐により、平和な生活が崩れてしまう。同時に夫と元恋人の関係が復活する。妻は夫を愛しているがゆえに、将来の幸せを願って去っていく。

主演は「大いなる勇者」のロバート・レッドフォードと「おかしなおかしな大追跡」のバーブラ・ストライサンド。「追憶」はミュージカル・スターとして出発し、喜劇スターとしても成功したバーブラにとって初めてのシリアスなドラマである。バーブラはこの作品の中でテーマ曲も歌っている。

製作は「フクロウと子猫ちゃん」のレイ・スターク。監督は「ひとりぼっちの青春」でアカデミー賞にノミネートされたシドニー・ポラック。原作、脚本を「ウェスト・サイド・ストーリー」のアーサー・ローレンツが担当している。

「追憶」はたんに甘いだけのラブ・ストーリーではなく、主人公たちの生き方や思想まで追求した構成のしっかりした愛の物語である。30年代から50年代までの社会背景や政治意識まで取り入れた格調高いドラマに完成されている。

アメリカ公開ではコロムビア映画初まって以来の大ヒットとなり、マスコミと興行界から絶賛されている。  
 (原題「私たちの道」。1時間58分。)

**\*ストーリー\***

1937年の春、ケイティー (バーブラ・ストライサンド) とハベル (ロバート・レッドフォード) は大学の同じ創作クラスで机をならべて勉強していた。

ちぎれ毛のケイティーは政治的に目覚め始めたばかりの活動家。ぎこちないながらも一生けんめい政治運動をしていた。

ハベルはハンサムで成績優秀な青年。ケイティーとは反対に政治的なものには関心がなく、同じ学生のキャロル・アンと恋愛をしていた。

やがて、学生たちは卒業し各方面に散っていった。

第2次大戦中のニューヨークでケイティーは偶然、ハベルに再会した。ハベルは海軍大尉だった。2人は急速に親しくなり、同じ家で愛の生活を始めるようになった。この頃、ケイティーの政治意識はますます高まり、積極的な活動家になっていた。

除隊後、ケイティーとハベルは結婚した。ケイティーはハベルに創作を促し、著作に多くの助言を与えた。

ケイティーとハベルは40年代の終わりにハリウッドに移った。ようやくハベルの脚本が売れ出し、映画脚本家小説家として名が出るようになっていった。

ケイティーは妊娠し、生活は平和で幸福そのものだった。だが、その平和は長くは続かなかった。ハリウッドにも共産主義者狩りのマッカーシズムが荒れ出したのである。

この嵐の中で、ハベルの友人たちが密告しあうようになっていった。だがケイ

**THE WAY WE WERE**



ティーは反マッカーシズムの運動にますます力を入れていた。

この頃、ハベルは創作に自信がなくなってきた。また、マッカーシズムの嵐から身を避けようと考えていた。そのためは、ケイティーと離れ、元恋人キャロルと近づくことが有利だった。

ケイティーはハベルとキャロルの関係やハベルの自信喪失を知って、別れることを考え始めた。別れることによってハベルがブラック・リストからはずされるかもしれない。

ケイティーは離婚を申し出た。そして2人は子供が生まれた後、離婚したのだった。

50年代の初め、ケイティーはニューヨークで「原爆禁止」の署名を集めている時、ハベルに離婚以来初めて会った。ケイティーはなつかしさのあまり、近づいていった。愛する心がまだ残っていたのだった。だが、すべては遅すぎた。2人の間には大きなへだたりがあった。ハベルはすでに再婚し、TVの脚本家として成功を収めた人となっていた。

ケイティーは自分も再婚したとハベルに答えたが、2人はお互いの元気を確かめ、抱きあっただけで別れていったのだった。

近日ロードショー

有楽町そごう側

スバル座

(212)

2826